

第Ⅰ部 海洋開発・利用・保全の促進 に向けた海洋情報の更なる活用

ラウンド1 各産業における海洋情報活用 の実態と課題

海洋調査協会 常任理事 今村遼平(アジア航測)

1. 海洋調査協会とは

JAMSA



昭59. 5. 31 任意団体 海洋調査協会
昭60. 4. 2 運輸大臣許可 全国法人
平24. 4. 1 一般社団法人移行

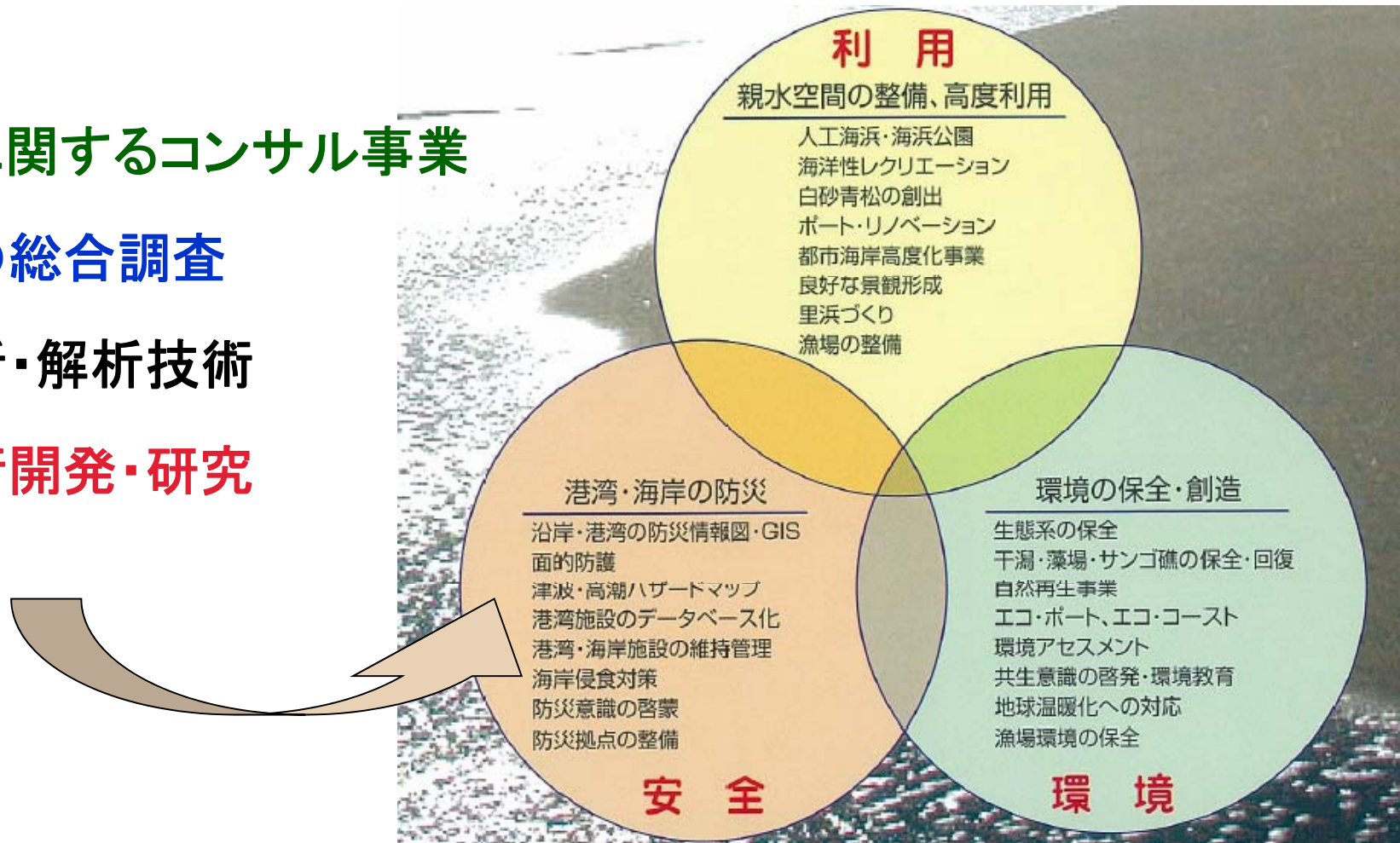
2. 海洋調査企業の活動(1)

海に関するコンサル事業

海の総合調査

分析・解析技術

技術開発・研究



海洋関係情報を収集・取得・整理し、それらを解析・統合して
クライアントの目的を達成するのが我々の役割

海洋調査企業の活動(2)

- 調査を主とするも、①現状把握 → ②解析・統合 → ③課題の抽出 → ④将来のあるべき姿の提示
といった、調査を主体とした流れ、あるいは
- ①計画 → ②調査 → ③設計 → ④施工 といった流れ
での、総合的なコンサルティングなどを実施している
- このため協会企業は、 海洋情報に関しては
 - ①既存の情報を利用する面と
 - ②業務の中で情報を新たに取得して、クライアントに提供する面の双方がある

例： 沿岸・海洋の防災に関するプロジェクト(津波の場合)



和歌山を襲う津波
のシミュレーション

■使用情報(既存あるいは新たな取得)

- ①海底地形図(細一中一粗)
- ②沿岸陸域地形(詳細:1/5000以上)
- ③建物・構造物情報
- ④危険物情報 etc.

■我々が生み出す情報

- ①津波浸水域
- ②被害想定(人、財産等)
- ③防災計画 etc.

■そこでの課題

- ①沿岸部の細かな海底地形情報の有無
- ②沿岸陸域地形情報の有無(レーザ測量成果が最適)
- ③海洋情報の一般公開基準の明確化

■統合・解析

3. 海洋情報の活用実態と課題

■ 必要情報(1).....業務活動として生の情報の収集・取得

- ①海底の測量・地形・地質
- ②底質・漂砂
- ③海洋生物
- ④海象(海流・潮流・潮汐・波浪)
- ⑤水質
- ⑥海岸・海洋の利用実態 etc.

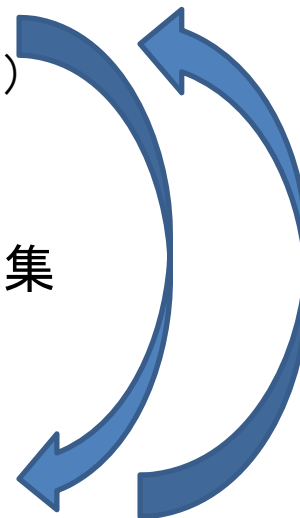
■ 必要情報(2).....既存情報の収集

- ①官所有の情報
- ②大学・関連学会の情報
- ③民間・関連協会の情報
- ④NPO・市民等の情報

■ そこでの問題点

- ①継続的な事業量が確保されていない
- ②必要な調査データの収集に困難を伴うことが多い(大変苦労している)
- ③必要な調査データ種類と質・量が不足している

以上



取得→解析→統合

これが我々の仕事

ラウンド2 海洋情報の更なる活用 に向けた提言

1. 海洋情報の更なる活用のニーズ

調査成果の良否は、入手可能な情報の「質」と「量」によって決まる

(1) 情報の「質」とは何か？

- ①データの取得の場所・広さ等の適切さ(空間的な問題)
- ②データ取得の方法(精度)・・・ただし、必要な細かさがあればよい
- ③データ提供の継続性の適切さ(時間的問題:継続して提供される必要がある)

(2) 情報の「量」とは何か？

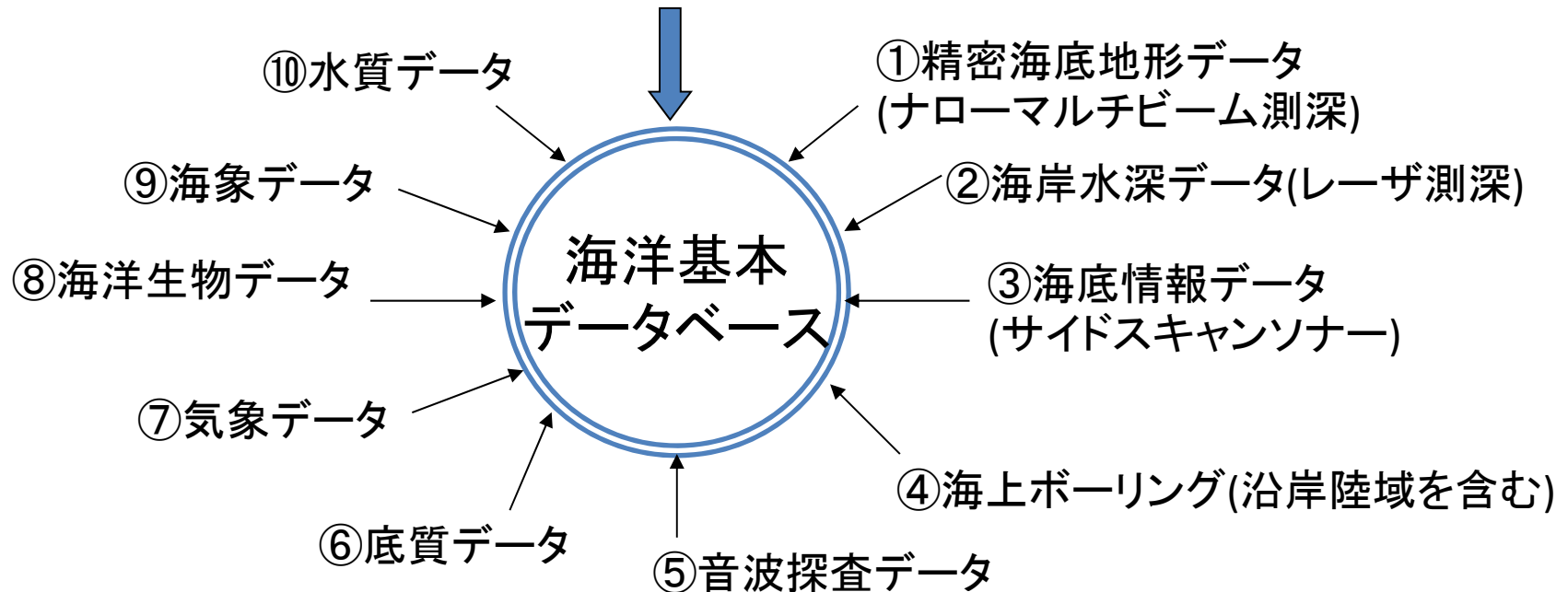
- ①現状の実態把握に必要な数量の確保(母集団の問題)
- ②解析精度を保つのに必要なだけの数量の確保(母集団の問題)
- ③過去－現在－将来 の予測に必要な情報量と継続性

(3) 更なる活用に向けた提言

- ①事業量の継続的な確保
- ②情報の種類・品質・量
- ③データの流通のスムーズさ

2. 海洋情報提供に対する期待と展望

2・1 海洋基本データベースの整備(海洋調査の充実)



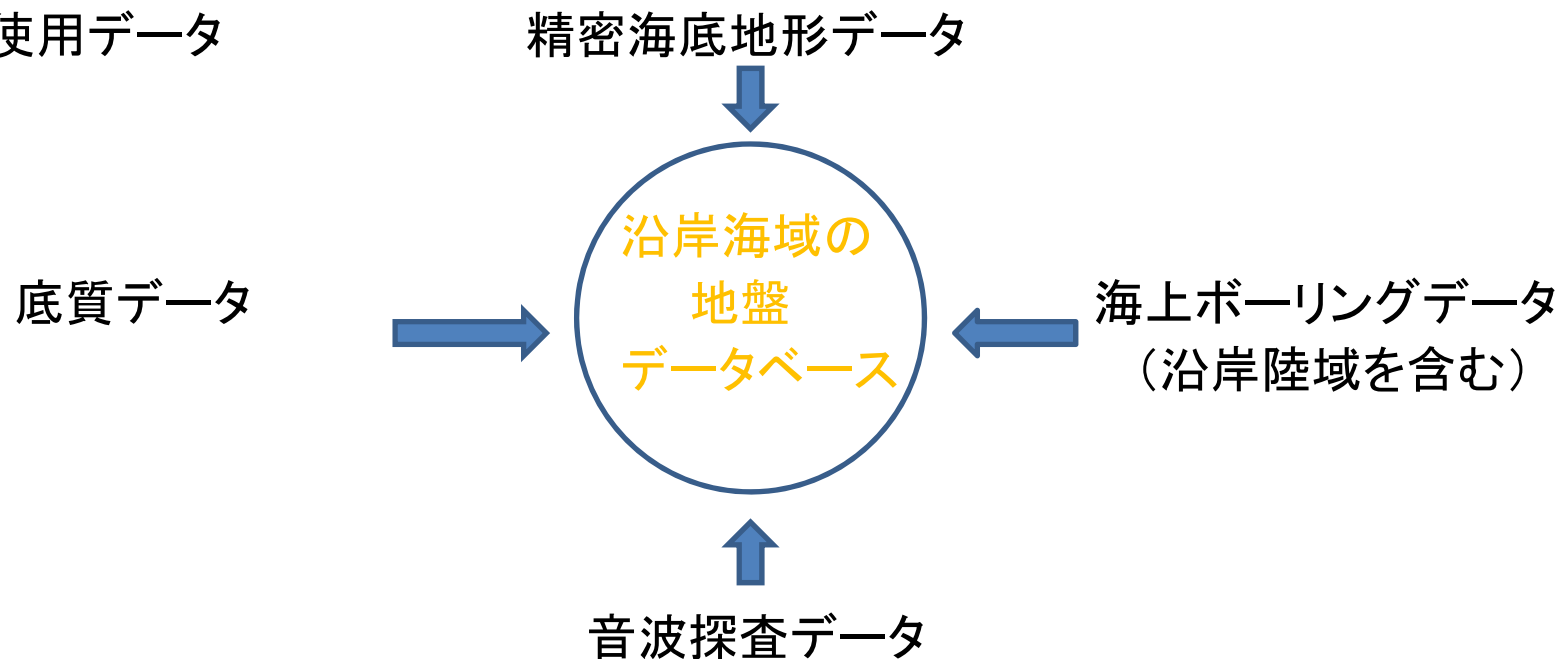
- 海の基本図の高度化(最新化:精度向上含)
- 環境データの付加
- データベースの拡大

必要データの最新機器による収集・整理(これが海洋調査協会の役目)

- ・沿岸海域地盤図のデータベース……①②③④⑤⑥(次のスライド参照)
- ・沿岸域海の基本図……①②③⑤⑥
- ・海洋動物音声(鳴き声)のデータベース(海上風力発電等の際必要)
- ・沿岸陸域と沿岸海域の活断層データベース(陸と海の連携がまずい)
- ・津波被災域のデータベース(昔 → 現在まで) etc.

2.2 沿岸海域の地盤図作り

- 地盤工学会では《全国電子地盤図》がデータベース化されている
- 107地区の《地盤図》が、いろいろのところから出版されている
- これらがそのまま役に立つとは限らないが、陸上の地盤調査の際、今後の調査方針を立てるのには大変有効である
- 沿岸海域の地盤情報の収集・データベース化の時期に来ているのではないか
- 使用データ



2.3 その一環として《クリアリングハウス》から 《海洋台帳》の充実へ

- 海洋台帳…………… 現在52(54?)の情報がマップ化されている
- クリアリングハウス……………情報の“ありか”を示すだけで、必ずしもマップ化されてはいない(電話帳のようなもの)
(しかし、その基本はマップ化されたものが多い)
- クリアリングハウスにリストアップされた“内容”を、徐々に可能なかぎりマップ化して、《海洋台帳》へ転載できないか……………海洋台帳の充実化
- あるいは、今はない新しい情報のデータベース化ができないか
(真に必要な情報でないと無意味だが…)

以上